平成25年度第３回　静岡市医療関係者連絡協議会　協議概要

１　日　時　　平成26年３月４日（火）午後７時15分から８時05分まで

２　場　所　　静岡市こころの健康センター研修室

３　出席者　（委員）青山茂夫委員（会長）、松永元良委員（副会長）、高尾和秀委員、秋山欣三委員、保坂知彦委員、田中一成委員、瀬戸嗣郎委員、島本光臣委員、藤井浩治委員、磯部　潔委員、石塚隆夫委員、玉内登志雄委員、島田孝夫委員

（欠席）日野昌徳委員、小澤照雄委員、中田　恒委員

（事務局）畑保健衛生部長、加治保健所長、村田参与兼保健衛生総務課長、藤田保健衛生総務課参事兼統括主幹、前林生活衛生課長、勝山生活衛生課統括主幹

４　議　事

（１）議題

ア　病院の増床に伴う病床配分について（静岡県立総合病院）

（２）報告事項

ア　病院開設者の変更について（社会保険桜ヶ丘総合病院）

イ　診療所の病床設置について（静岡整形外科・脊椎クリニック）

ウ　静岡地域災害医療対策検討会について

エ　静岡市新型インフルエンザ等対策行動計画について

５　会議内容

（１）病院の増床に伴う病床配分について

ア　静岡県立総合病院

【説明事項】

・平成22年３月の静岡県保健医療計画の改定により、静岡医療圏域における基準病床数は7,189床とされた。

・平成25年10月１日現在で、圏域病床は570床の不足であったため、平成25年11月、12月の２か月間、本年度第２回目の病院の開設等の事前協議の申し出を受け付けた。

・地方独立行政法人静岡県立病院機構より、静岡県立総合病院において、一般病床を増床したいとの要望があった。

・本館６階の６Ａ病棟の結核病床を50床返上し、そこに一般病床42床を増床するもので、病床配分後は一般病床が620床から662床に、結核病床が100床から50床になる。

・増床の理由は、現在稼働していない結核病床を一般病床に転換することで、今後の高齢化による患者増加に対して、入院患者の受け入れ態勢を強化し、また、非稼働病床の有効的活用を図っていきたいとのこと。

【意見及び要望等】

・緩和ケア病棟は一般病床か。→加算は取っていないが、一般病床を使用している。

・減少させる結核病床の利用率はどの程度か。→20 人程度である。50 床は使っていない状況である。

◎県立総合病院の「病院の増床に伴う病床配分について」は了承された。

（2）報告事項

ア　病院開設者の変更について

・現在、社団法人全国社会保険協会連合会が開設者となっている社会保険桜ヶ丘総合病院は、関係法令の改正により、平成 26 年４月１日から、独立行政法人地域医療機能推進機構が病院を運営することとなり、医療法上、開設者変更による新規開設の扱いとなる。

・本来は病床配分にかかる本協議会の議題となる案件であるが、「静岡市病院等の開設等に係る指導要綱」第３条の規定により、「法人格の取得等に伴う開設の場合で、病院又は診療所の構造又は病床数に変更を生じない場合」は適用除外とされており、本件はこれに該当する。

・今後行われる同病院の開設許可申請に際し、既存の一般病床 199 床を配分する旨を、あらかじめ本協議会において報告するものである。

イ　診療所の病床設置について

・葵区上土に開設予定の「静岡整形外科・脊椎クリニック」について、「脊椎疾患の手術に伴う入院設備が必要」などの理由から、新規に一般病床 18 床を設置したいとの申し出があった。

・書面による審査を行い、また、静岡市静岡医師会からも病床配分に「異議なし」との回答を受けたため、平成 25 年９月２日付で病床の配分を行った。

ウ　静岡地域災害医療対策検討会について

・東日本を受けて、静岡市内の災害医療体制の充実を図るという事で、医療関係者で、検討会を平成 24 年の 11 月に設置した。

・平成 25 年度は４回（５月、９月、11 月、２月）開催した。１回目と２回目につきましては、前回の本協議会で報告した。今回は 11 月の第３回、２月の第４回の２回分について報告した。

・検討内容は、静岡県第４次地震被害想定に基づく人的被害の想定について、医薬品の調達について、透析器医療体制、保健医療対策について、及び統括医療コーディネーターについて、それぞれ概要を説明した。

エ　静岡市新型インフルエンザ等対策行動計画について

・今年度、国の特別措置法が施行され、市の行動計画を策定した。

・前々回、前回の協議会にて計画の概要を説明した。

・その後、パブリックコメント、庁内の手続きを行い、２月 21 日付けで公表した。

・今後、この計画を周知していかなければならない。特に医療体制について、帰国者接触者外来、帰国者接触者相談センターという形になり、一般の医療体制と異なるので、医療関係者に説明し、その後市民の皆さんにも周知を図っていきたい。